

静岡縣近代史研究会

会報

10月
2024年10日
月刊第553号

<総会記念講演会レジュメ>

ヤスクニと旧幕臣

一幕末維新殉難者の慰霊・顕彰をめぐる一

樋口雄彦

歴史の記憶装置として慰霊や顕彰の機能を担うモニュメントのうち、一部のものは、現代において思想的・政治的立場を異にする人々の間に生じた軋轢が原因で、対立的、分断の象徴となっている。日本の植民地支配をめぐるそれが生々しい例であるし、アメリカで数年前から進んでいる、南北戦争の南軍側モニュメントを撤去する動きなどもそうである。日本でもっとも激しく全国レベルで石造物・モニュメントの排除が行われたのは、明治初年の廃仏毀釈は別として、敗戦直後のGHQによる忠魂碑の撤去が最たるものであろう。

アメリカの南北戦争は、日本の幕末と同時期の出来事であるが、南軍のモニュメントが奴隷制や人種差別を容認する存在とみなされ、撤去されていっている現状に対し、幕末政争や戊辰戦争における旧幕府側を対象とした慰霊碑・記念碑・銅像などが、旧体制＝封建権力のシンボルとして排斥されるといった現象はない。現代人にとって、「勤王」「佐幕」などの違いはいつでもよいことだし、小説や映像作品などの影響も大きく、新選組や白虎隊を代表とする維新の「敗者」の評価をめぐる、一般国民が分断されることなど、まったくといってよいほどない。いまだに残る会津の人々の感情的なわだかまりはよく知られているし、近年、政府が主導した明治維新150周年記念事業に際しても違和感が表明されたりしたが、その影響はごく限定的であろう。

そもそも、撤去ではなく、建設段階でのモニュメントをめぐる国内対立は、幕末維新时期の政争や戊辰戦争に関わる死者の慰霊・顕彰に関わり、日本では近代成立期にこそ見られた。旧幕府側の墓石や慰霊・顕彰施設は、建立当初、すなわち維新直後から明治・大正・昭和戦前期にこそ、史観や政見を異にする立場からの対立が顕在化していたといえる。靖国神社の合祀対象となるか否かが、「官軍」側からする「賊軍」「朝敵」の排除・選別であったことは言うまでもない。

旧幕臣にとって第二の故郷となった静岡県には、多くはないが「敗者」の側。

書評

松野尾裕・見城悌治・落合功編著『報徳思想とその展開』
一掛川地域史の課題を中心に

南 隆哲

『報徳思想とその展開』を読む一経済史学徒から

山本義彦

『報徳思想とその展開一近世から近現代へ一』

橋本誠一

ひろたまさき『異国の夢二』を読んで

小池善之

時評

佐渡鉦山（「佐渡島の金山」）の世界遺産登録が問うもの

竹内康人

第一回「原口清先生記念研究奨励制度」受賞作品

橋本誠一

彙 報

編集後記

例会のお知らせ

<10月総会>

日時：10月14日（月・スポーツの日）

・13：20-14：00 総会

・14：30-17：00 記念講演

樋口雄彦氏「ヤスクニと旧幕臣一
幕末維新殉難者の慰霊・顕彰を
めぐって一」

場所：Web 会議システム Zoom／鎌倉文庫

申込方法：本誌2ページをご覧ください。

詳細は、9月会報1～2ページの会告
をご覧ください。

<11月例会>

日時：11月16日（土）14：00-17：00

場所：Web 会議システム Zoom／鎌倉文庫

申込方法：11月会報に掲載します。

報告者：池田真歩氏（東京都立大学）

報告タイトル：「帝国議会開設前後の政

党・政派間競合：静岡県内
の動向の再検討」

<会報に原稿をお寄せください>

会報原稿は、下記のアドレスにメールで
送ってください。但し、掲載号については
会報編集担当者にお任せください。どうぞ
よろしくお願いいたします。

メールアドレス：cqh00053@nifty.ne.jp

（会報編集担当：川上）

静岡県近代史研究会会報 第553（月刊）

2024年10月10日

非売品（非会員は印刷実費100円）

連絡先 〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

静岡県立大学 国際関係学部 森山優研究室

電話：054-264-5386（直通）

年会費：4,000円（メール会員は3,500円）

ゆうちょ銀行払込口座：00850-6-54573

ホームページ：

<https://shizuokakenkindaishi.wordpress.com/>